

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 490 号	氏名	松尾 綾
学位審査委員		主 査	蒔田 直昌
		副 査	下川 功
		副 査	佐々木 均
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、覚せい剤メタアンフェタミン(MA)による中毒死の原因を、Immediately Early Gene や PI3 キナーゼを介した心肥大関連遺伝子の変化と、心筋 K チャネル遺伝子を介した QT 延長の観点から解明しようとするもので、目的は妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 単回投与実験として、BALB/c マウスに MA を腹腔投与し、30 分～2 時間、および 1 日経過後に心筋 mRNA を抽出し、Immediately Early Gene、PI3 キナーゼ関連遺伝子、心筋 K チャネルの mRNA を定量 RT-PCR 法で測定した。同様に、MA を 1 日、2 週、4 週、連日腹腔内に継続投与し、上記遺伝子の mRNA を定量した。えられた結果を統計学的解析法で解析しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 MA 単回投与後、30～60 分で Immediate early gene も発現が増加していたが、継続投与では発現増加は認められなかった。また MA によって、心肥大シグナル伝達を担う PI3 キナーゼ関連遺伝子の発現が亢進していた。また <i>KCNJ15</i> や <i>KCNJ4</i> などの K チャネル遺伝子の発現が低下しており、QT 延長の原因になると思われた。以上の結果から、覚醒中毒死の少なくとも一部には、心筋の遺伝子発現変化によって心肥大や QT 延長をきたし、突然死するものがあると推測される。</p> <p>以上のように本論文は法医学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			